

## 共同生活援助事業所ポケット（てくてく）地域連携推進会議 議事録

開催日時 令和8年3月20日（金）14：00～15：30

開催場所 共同生活援助事業所ポケット 1階共有ルーム

出席者 〔地域連携推進委員〕 利用者代表、家族代表（議長）  
福祉知見者（副議長）、地域関係者  
〔事業所関係者〕 管理者兼サービス管理責任者、支援員

### 【事務連絡】

開催に先立ち、本地域連携推進会議における以下の注意事項を管理者から地域連携推進委員にお伝えした。

#### ○会議内で知り得た情報の秘密保持について

すでにご記入いただいている参加承諾書にも記載のとおり、本会議で知り得た個人情報等について、外部に漏らすことがないようにご配慮いただくこと。

#### ○会議の議事録の取り扱いについて

会議終了後に議事録を作成し公表することが義務つけられており、当法人ホームページにて公表すること。その際には個人情報保護の観点から「利用者」「利用者家族」「地域関係者」「福祉知見者」といった参加者の所属表記とさせていただきますこと。

### 【開催挨拶】

定刻により、管理者から開催挨拶がある。

### 【出席者紹介・自己紹介】

管理者より、本日の参加者の所属、氏名の紹介があり、地域連携推進委員より一言ずつご挨拶をいただく。またこの機会に議長、副議長を推挙し、承認を得た。

### 【議題等審議】

#### 議題1 地域連携推進会議に関して

管理者より、地域連携推進会議の目的・役割や地域連携推進委員の訪問ポイントなどについて、厚生労働省の資料「地域連携推進会議の手引き」に沿って説明があった。

説明に対して、質問ならびに意見等なかったため、議題1は以上となる。

議題2 サービス内容、利用者の日常生活・活動の様子、経営状況、その他  
利用者代表から、当事業所を利用されるに至ったこと、通所されている日中活動事業所での活動内容、利用者間で協力しあっていること、時にある利用者間トラブルとその時の職員の動きについて詳細に説明された。  
管理者、支援員からは補足として、当事業所の必要経費（家賃、食費等の生活費、各自の医療費やし好品）と個々によってあることも含め、重要事項説明書も併用して説明があった。  
委員（地域関係者）より、利用者の収入源は何かを問われたため、各自に支給される障害基礎年金に加えて日中活動等での工賃で生活を賄われていることをお伝えしたことで、共同生活援助での暮らしの一部を知っていただく機会となった。  
その他、質問ならびに意見等なかったため、議題2は以上となる。

議題3 施設等と地域との連携  
管理者より、一人ひとりが個人の生活を送ることが前提にあるため、買い物や余暇の過ごし方は様々であること（例として、図書館や公園散歩といった近隣資源での過ごし方もあれば、日中活動事業所の仲間と計画して外出すること）もあるし、地域行事（祭りやイチゴ狩り）や避難訓練参加等々があると説明があった。  
ただし高齢により身体面での不安が高まった方には、付き添いや代行依頼を受けて対応させていただくこともあるが、生活水準が低下しないように、また各々のライフスタイルを阻害しないように気を付けないといけないことが補足説明としてあった。  
説明に対して、質問ならびに意見等なかったため、議題3は以上となる。

議題4 利用者の権利擁護  
管理者より“虐待防止や身体拘束適正化に関する取り組み”“ひやりはっと・事故発生報告での検証や再発防止”の説明があった。また上記したように生活の主体者として個別のライフスタイルを尊重するためにも意思決定支援を意識し、振り返り反省するの繰り返しであるとの現状報告があった。  
説明に対して、質問ならびに意見等なかったため、議題4は以上となる。

議題5 その他  
委員（地域関係者）から「立地する周辺に目印になるような建物もなく、グループホームの看板もないため、初めてだとわかりにくい場所である。案内板や看板があった方が良いのでは？そうすればアピールにもなるのでは？」というご提案が上がった。  
管理者から「夜間職員を配置していない女性のみのグループホームである。また

近隣住民も高齢であり環境的に静かな場所でもある。近隣住民とは挨拶を交わす関係性は担保されているし適度な距離感でうまく過ごせていると思うし、グループホームの建物自体が一軒家であることも地域になじんでいる理由の一つかと思っている。防災含めた安全面を考えると夜間職員の配置が必要であるが、現利用者の皆さんは生活面での自立性とプライベートな時間を邪魔されたくないといった過ごし方をされてきた方々であることから丁寧に人選することも必要であり検討中」という説明があった。

説明に対して、質問ならびに意見等なかったため、議題5は以上となる。

#### 【地域連携推進会議を終了して】

利用者代表からは、委員とし手の発言や当日資料の確認等を求める発言もあって、しっかり存在感を発揮されていた。

家族代表からは、開設当初からご家族（妹）が利用されていることについて「グループホームで暮らしているからこそ、会議内でもあったように本人らしい暮らしが送れているのであり、今後も継続して行ってほしい。やはり同居では今のようにはできないし本人も過ごせない。利用最初の時は両親が判断して決め、今は自分が引き継いだ改めて当時の判断が良かったと振り返っている。また今回のような場に参加したことは有意義だった」という発言をいただいた。

地域関係者からは「質問を通じてこういった暮らし方をされている人たちがいることを知ることができた。また職員を見て大変さよりも楽しくやっているような印象を受けた」と利用者、職員両面に関する発言をいただいた。

福祉知見者からは「同じ社会福祉に従事する立場として、今後も協力体制で行きたいという考えである」という発言をいただいた。

司会進行より「以上を持ちまして令和7年度 共同生活援助ポケット（てくてく）地域連携推進会議を閉会します」と宣し、15：30過ぎに散会した。

建物周辺含む環境、設備と了承を得た利用者個室などの見学もしていただいた。